

「天使になった少年」

広い荒野で一人 僕は風を待っていた

あの山の向こうへ行きたくて

あの空の彼方へ行きたくて

風が吹くのを待っていた

なのに

昨日はやつてはこなかった

今日も吹いてはこなかった

明日は吹いても飛べる気がしない

このまま風を待っても風は来ない

この風を受けても空へは飛べない

今の僕には翼が無い

飛びたてる丘にいない

飛び続ける力も無い

何もなかったが

何もないと知った時

僕は気が付いた

風は確かに吹いていた

毎日、確かに吹いていた

風はいつも、優しく吹いていたのに

僕が勝手に「この風では飛べない」

と決めてつけていた

僕は風へ向かった

丘の上から吹いて来る

あの風の方向へ、風上へ向かった

あの優しい風が、だんだんと強くなる

歩く程に風は強くなる

進む程に、登る程に風は吹き荒れる

それでも一歩、また一歩

風の吹く方へ、飛び立てる丘の上へと

登り続けた

丘の上は雲の上だった

僕は歩いて、雲の上へとたどり着いた

空へと昇った

そう想った時

僕の背中には翼が生えていた

もう、進む必要も、登る必要もなかった

翼があるから、いつでも、どこへでも飛び立てる

僕はもう 羽ばたいて行ける

僕の羽ばたきは、風となり、丘をくだり、荒野へと優しく流れていく

その風を受けた誰かが、こちらへと歩き始めた
不安な一歩を踏み出して、最初は弱く頼りなく
だんだん、強く頼もしく、

もうすぐ丘の上へ、雲の上へとたどり着く
彼の真つすぐな瞳は、あの頃の僕だった

この翼は彼へと託そう

僕はもう あの山を越えて

空の彼方にいるのだから

次は星になる事を願おうか

この世界に降りそそぐ、

光になる事を願おうか

広い空の中 僕は太陽を目指した

『一服させてください』

先輩 タバコ吸っていいかな？

後輩 先輩・・・それ・・・ずるいですよ

先輩 そうかな

後輩 ダメって言ったらどうします？

先輩 そうだな、まるで決定権がお前にあるみたいだな

後輩 てめえ、ふざけんじゃねえぞ

後輩 どうして僕が偉そうな人みたいになってるんですか

先輩 じゃあ、嫌ですって言ったらどうします？

先輩 そうだな、そこをなんとかって頼むわ

後輩 だから嫌だって言ってるんですよ

先輩 聞いてくれないなら、なんで聞くんですか？

先輩 そうだな、人としてのマナーみたいなもんだな

後輩 マナーがあるなら人前で吸わなきゃいいんですよ、

僕、タバコ嫌いなんですよ

先輩 だからちゃんと聞いてるだろ、タバコ吸っていいかな？って

後輩 それがずるいって言ってるんですよ

先輩 断ったらこっちがわがまま言ってるみたいになるじゃないですか

先輩 じゃあ、酒飲んでいいかな？

後輩 ダメですよ、仕事中ですよ

先輩 仕事終わったらいいのか？

後輩 ご自由にどうぞ

先輩 じゃあ飲みに行こう、おごるから

後輩 ありがとうございます。でも、僕は飲めませんよ

先輩 なんで酒飲まない奴が、酒飲む奴と一緒にいれるんだよ、

タバコはダメなのに

後輩 お酒は構いませんよ、別に害無いですから

先輩 いや、そんな事はないぞ、息が酒臭くなる

後輩 タバコ程じゃないですよ

先輩 それはお前の主観だろ、酒の匂いの方が嫌な奴もいるはずだ

後輩 それに説教も増えるぞ

後輩 人によります

先輩 いや、俺は説教するぞ

後輩 同じ事何回も言いますね

先輩 おい、おかしいだろ、

じゃあなんで飲みに付き合ってくれるんだよ

後輩 おごってくれるからですよ

先輩 じゃあシガーバー行こうぜ、葉巻の吸えるバーだよ

後輩 嫌ですよ

先輩 おごってるやるからさ！

後輩 煙が嫌なんです！髪にも服にも匂いがついて嫌なんです

後輩 服に着いたら洗わなきゃいけないでしょ

先輩 うわ、お前、臭い付かないと洗わないの？汚っねえ

後輩 シャツは洗いますよ！上着は2〜3日に1回でもいいでしょ

先輩 俺は1週間に1回で十分だな

後輩 僕もそうなんですけど！また不潔とか言われるの嫌だったから、

盛って2〜3日に1回って言ったんですよ。

タバコの匂い付いた服なんか家で着れないですよ！

髪についたら洗わないと枕まで臭くなるから

先輩 洗わないと寝れないし！
 後輩 うわ、お前、いつも風呂入らないで寝てんの？汚ねえ
 先輩 言うと思った！朝シャン派なんですよ！僕は！
 後輩 というか、こんな話がしたいんじゃないんですよ！
 先輩 タバコは迷惑だって言ってるんですよ！
 後輩 酒癖悪い奴も迷惑だろ
 先輩 先輩はそこまで悪くないでしょう
 後輩 俺、いつも説教しちゃうしさ
 先輩 言われる内が華ですよ
 後輩 同じ話繰り返し
 後輩 大事な事なんだろうなって聞いてますよ、
 先輩 本だって繰り返し読むでしょ
 後輩 態度だってでかくなるし
 先輩 タバコ吸ってる人はみんな態度でかいでしょ
 後輩 それは偏見だぞ、申し訳なさそうに吸う奴だっているんだぞ
 後輩 そういう人はいいんですよ
 先輩 「タバコ吸っていい？」って聞いてこないじゃないですか
 後輩 そんな愛煙家は素敵だなんて思いますよ
 先輩 じゃあ千鶴とかか
 後輩 え？・・・千鶴さんタバコ吸うんですか？
 先輩 人前で吸わないって言ってたしな
 後輩 ちよっとイメージと・・・先輩の前では吸う？
 先輩 うん、俺はそっちのイメージの方が強いな、下ネタも言うし
 後輩 え？千鶴さん下ネタ言うんですか？
 先輩 タバコ中は全然OKだよ、酒入ったらもつと言うよ

後輩 ・・・・一日なん本くらい吸ってました？
 先輩 ちよつとだよ、1箱まではいかないんじゃないかな
 後輩 ・・・・そっか・・・
 先輩 お前今、なら良かったとか思ってない？
 後輩 いや、思ってないです
 先輩 なんてちよつと吸うくらいならいいんだよ、差別だろ
 後輩 なんでその審査は甘いんだよ
 先輩 だから、思ってないですって
 後輩 もう一つ教えてやろうか
 先輩 千鶴は、タバコを、自分の部屋では吸わない
 後輩 匂い対策はしてたよ
 後輩 へえ・・・
 先輩 なんて嬉しそうなんだよ
 後輩 そいつが自分ちで吸おうと吸うまいとお前に関係無いだろ
 後輩 いいじゃないですか別に・・・
 先輩 ってなんで千鶴さんのそんな事知ってるんですか？
 後輩 タバコ吸う女ってちよつとエロいよな
 先輩 聞いてないです
 後輩 タバコ吸う女って、落としやすそうな気がするよな
 先輩 だから聞いてないですって
 後輩 聞いてきたのはお前だろ
 先輩 僕は聞いているのは千鶴さんと・・・
 後輩 危ない！

SE…銃撃音（後輩をかばう先輩）

先輩　ぐあっ！

後輩　先輩！

SE…銃撃音（後輩が敵を仕留める）

後輩　先輩！大丈夫ですか？先輩！

先輩　はあはあ・・・無駄話してるからだよ・・・

どんな時も・・・気は張ってる

後輩　すいません・・・

先輩　・・・タバコ・・・吸っていいかな？

後輩　先輩・・・それ・・・ずるいですよ

SE…ライター着火音

二人　ふー・・・

先輩　どう？

後輩　・・・ちよつと美味しいかも・・・です

先輩　無理すんなって、千鶴はお前の前じゃ吸わねえよ

後輩　え？なんて

先輩　ちよつと眠くなってきたよ・・・

後輩　先輩・・・寝させるか（ビンタ）

先輩　痛っ

後輩　どういう意味ですか？

先輩　一服させてください
後輩　今したばかりでしょ

END

『大物 赤ちゃん』

カタンコトン、いつもの電車、おむかいには赤ちゃんとおばあちゃん

そろそろ次の駅、おばあちゃん、いそいそと、赤ちゃんを背負うために奮闘中

そんな中、赤ちゃんは、

ニコニコ、ホワホワ、マンマル、コロコロ

おばあちゃんは相変わらず奮闘中

こっちの紐は、そっちに結ぶのか、

あっちを通すのか、アラアラ、オロオロ

赤ちゃん、知ってか知らずか、ニコニコ、コロコロ

お隣さんが、助っ人加入 つられてさらにお隣さんも

私もいこうか、どうしようか、

周りを見ると、みんな、私もいこうかどうしようか

赤ちゃん、大物～だね

こんなに大勢、あなたの事で大忙し

いそいそしながら、ほんのり幸せ、おすそ分け

そんな中でも、やっぱりあなたは、

ニコニコ、ホワホワ、マンマル、コロコロ

『リム・カナン』

夢より遠く、遥か彼方、光の行方にある世界、

その世界の住人は不思議な力を持っていた、

その手に触れたものに、ある魔法をかけると星になる、

こうして人々は星空のアートを描いた

星を創り出す力の名は『リム・カナン』

その力は皆平等に備えてはいるものの、

何でも自由に星へと変えられるわけではない

星にできるものは一人一人違う、

砂を星に、花を星に、魚を星に、動物を星に

あの人にはできるのに、私にはできない、

私にはできるのに、あの人にはできない

ゆえに『リム・カナン』そのものが、その人であり、心であるとされ

人は、人の『リム・カナン』を尊く崇めていた。

ある時、誰かがおこなった『リム・カナン』の星から、

一つの彗星が堕ちてきた

その彗星には人が乗っており、こう言った

「この形の星を増やしてほしい」と

気に入ってもらえた人々は喜んで『リム・カナン』をおこない

星を増やした

すると、その星々から、いくつもの彗星が堕ちてきた、その彗星に乗っていた人々はこういった

「あの形の星が気に入らない、これ以上作るな」と

気に入ってもらえなかった人々は深く傷付き、作りたくても作らせてもらえず、

やがては力を失い、存在すらも失った

いつしかその世界の星空は大きく偏り、

ただ、まぶしいだけの空へと姿を変え

星と星とがぶつかり合い、住人達もぶつかり合い、

人が住めない世界になった

誰かが言った、「どこで間違えたのだろう」と

すると誰かがこういった「私があの時、あの人を星に変えたから」と・・・

『リム・カナン』は心と心が通じ合ってできる力

ゆえに、人によって、心の通いやすいもの、通にくいものがあつた

それでも心が通じ合うなんて素敵な事、

人は人のおこなう『リム・カナン』を敬い、

星はその人、そのものとして愛した

でも、私とあの人とは愛し合ってしまった、あの人を星を愛すだけは哀しく足りない

そして、その手と手が触れ合い

私は『リム・カナン』をおこなう魔法、口づけをしてしまったからあの人には星になった、星になったあの人にはもうこの世界にはいないのに、いない・・・

私は悔やみ、悲しみ、切ない、満たされぬ想い

そして、なにより、なぜあの人だけが星となったのか、

なぜ私も星になれなかったのか

あの方は私の心と通じていなかったのか、

私があの方の心を通していなかったのか

その想いが迷いとなった私は、

心が通じてもないものにも口づけをした

だが、心の通じていない、ただの口づけのはずが

『リム・カナン』となり、それらは星となった

だが、その星は、星であつて星ではなかった、星の形をした別のものが彗星となって堕ちてきたのだ、それが全ての過ちの始まりだった

しかし、その世界の住人は、誰も責めなかった

嘆き、哀しみながらも、その『リム・カナン』を敬った

いつの日か、また、皆で、あの星空を見られる事を誓い
自分自身に心を通わせ、自らを口づけし、

『リム・カナン』をおこなった

一人、また、一人と天空に舞い上がる中

最後の一人である私は・・・

自分へ口づけするその瞬間に想ってしまった

自分が許せない・・・と・・・

自分自身と心を通わせられない魔法

それは偽りの『リム・カナン』となり、星の形をした別のものは
夢よりも遠い世界へと墮とされてしまった

いつも星になった時にこう想い出すのだ

「私は・・・何度、同じ過ちを繰り返しているのだろう」と

『2人のお花畑』

♂ これからはここで2人の食べ物を作ろうここは何を育てようか？

♂ ジャガイモ？トウモロコシ？それとも

♀ マリーゴールド

♂ マリーゴールド？・・・うん、それもいいね

♂ じゃあこっちは何を育てようか？

♀ レタス？トマト？それとも

♀ サルビアとムスカリ

♂ サルビア？ムスカリ？・・・ああ、それもいいね

♂ じゃあ、あっちは何を育てようか？

♀ リンゴ？オレンジ？それとも

♀ チューリップ

♂ チューリップ？・・・なるほど、それもいいね

♂ じゃあ・・・

♀ そっちはコスモスとタンポポ、向こう側はラベンダー

♂ 窓を開けたらヒマワリ、玄関にはユリとモクレン、寝室には・・・

♂ もうオナカいっぱいだよ、素敵な毎日が過ごせそうだ

♀ 本当？良かった

♂ ごちそうさまでした

♀ おそまつさまでした

♂ これからもよろしくお願いします

♀ こちらこそよろしくお願いします